

中国・上海から「日本のアート」を発信しよう！

1st Asian Art Way 2011 in SHANGHAI



AAW
2011

明日を、自らの力で
拓いていこうとする、
アーティストの力作を
「AAW2011」は広く募ります。

2011.9.17 sat → 9.25 sun

【開催概要】

会 場：**上海 M50 半島 1919 日本文化村**（上海市宝山区松興西路 258 号所在 18 号棟の 02 単元及び 03 単元）

・メイン展示 A ブース × 6 (1035×390×1035cm) B ブース × 4 (1000×390×1000cm)

主 催：Asian Art Way 実行委員会（実行委員長 隠地妙 事務局長 本多隆彦 委員 西喜智江・本多彬乃）

後 援：日本領事館、半島 1919 アートセンター、泰明画廊、篠田美術

協 力：日本文化村、レッドタウン（紅坊）、M50 アートエリア、（株）SOLPAC、上海印藝術文化伝播有限公司

【募集内容】

1、テーマ：自由

2、応募資格：不問

3、応募作品：平面作品

第一次審査 写真データによる審査 (JPEG、PDF)

第二次審査 100 号程度の作品（最長辺 150cm まで）等数点（1 作家、壁面長 7 メートル使用）

4、応募点数：第一次審査 3 点まで

5、応募料：10,000 円（第一次審査）

6、応募締切：**2011 年 7 月 25 日（月）**

7、展覧会出品者には展覧会カタログを一部贈呈

8、出品管理費：20,000 円（第一次審査通過者、上海出品）

【賞】

1、半島 1919 AAW 大賞 1 名 賞金：20 万円 副賞：上海市内のギャラリーでの作品展示

2、半島 1919 日本文化村賞 2 名 賞金：10 万円 副賞：上海市内のギャラリーでの作品展示

3、半島 1919 企業賞 数名（出品作品買い上げ賞）

【応募方法】

●第一次審査 展覧会出品の 30 作家を選考します。

所定の申込用紙に必要事項を記入し、3 点までの作品写真データと、応募料の振込み控え（コピー可）と共に、下記事務局にご郵送ください。**2011 年 7 月 25 日（月）必着**

●第二次審査 第一次審査を通過した方

7 月 31 日までに第一次審査通過のお知らせをいたします。（作品搬入日 2011 年 8 月 31 日必着）

※出品作品に関するご相談を第一次審査後に行います。

●審査員：隠地妙（画家・AAW 実行委員長）、本多隆彦（月刊ギャラリー編集長）、篠田正道（篠田美術）、壇上正憲（泰明画廊）、鄭培光 Zheng Pei Guang（上海紅坊发展有限公司 CEO）、潘微 Pan Wai（画家、武藏野美術大学客員教授）、陳剛 Chen Gang（聖菱画廊代表）

募集要項・申込用紙は下記にご請求ください↓

AAW2011 実行委員会

〒111-0053 東京都台東区浅草橋 4-1-6 幸陽ビル（月刊ギャラリー内） Email:blossom@31pc-seijo.com

Challenge

中国・上海から「日本のアート」を発信

第1回 Asian Art Way 2011 in SHANGHAI (AAW2011)

アーティストの力作を募集

中国・上海市宝山区に新しいアート・ゾーンとして誕生した「M50 Bund (半島) 1919」は12万m²の広大な土地にさまざまな施設の建設が進められている。弊誌本年5月号に既報の「日本文化村」もその中に4月16日にオープンした。

このハード（スペース）を活用して、日本文化を発信していくという企画、Asian Art Way 2011 in SHANGHAI (AAW2011) が、いよいよスタートした。アーティストが海外で



1919 入り口

活動できるような道筋を作つて、いこうという公募展で、作家を選択するだけでなく、上海のギャラリーなどの展覧会実現に向けた展開も含まれている。

作品写真による選考の一次審査（7月25日締切）で30名が選ばれ、その30名には「日本文化村」の展示スペースにそれぞれをクリアできなくては、逆に国際的な活動を求めないほうがいいですね。厳しい現状を打破していく力も必要ですから」

「この条件の中で、いかに自分の作品を発表していくか。国際的に活動していくたいというアーティストは、こうしたこと

をしてアジアから世界に発表を続ける作家の誕生となるような「Asian Art Way」が、日本から伸びていくことになっていくのだろうか。



1919 日本文化村 各入り口



Asian Art Way 実行委員長の隠地 妙

と考える隠地委員長は、上海での幅広いネットワークを使い、日本人アーティストの活動支援を行おうとしている。

さて、その要求に応えるどんな作家が登場してくれるのだろうか。単に受賞者を選択するという公募展ではなく、その先のアーティストの活動支援を視野に入れた企画が用意され

いる。日本文化村のオープンから、AAW2011の企画スタート、そしてアジアから世界に発表を続ける作家の誕生となるような「Asian Art Way」が、日本から伸びていくことになっていくのだろうか。

「この条件の中で、いかに自分の作品を発表していくか。国際的に活動していくたいといふアーティストは、こうしたこと